

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

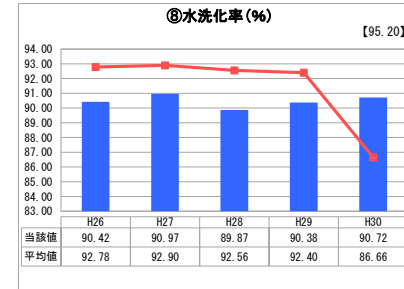
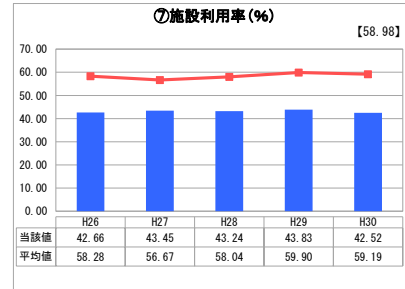
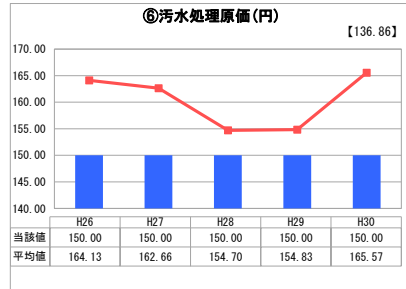
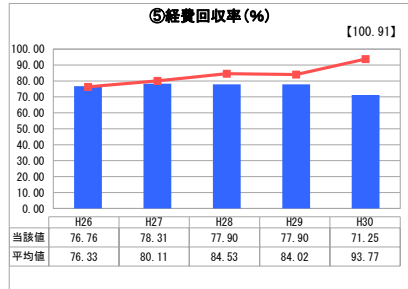
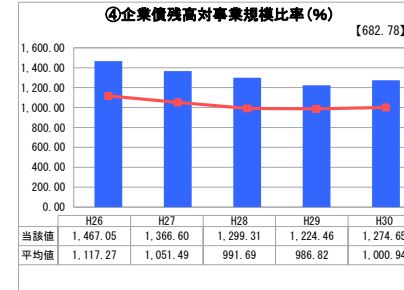
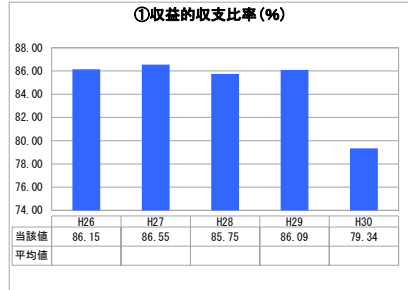
埼玉県 毛呂山・越生・鳩山公共下水道組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	63.75	96.57	1,890

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
37,788	7.61	4,965.57

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
 総収益は使用料収入と一般会計からの繰入金であり、総費用と地方債償還金を補っていない状況である。平成30年度は法適用に伴い、打切決算をしたため、使用料等が減額になり総収益が減少していることが前年度との比較に影響している。供用開始から30年が過ぎ処理施設の老朽化により費用が増加している。今後は収支計画を策定して経費改善に取組まなくてはならない。維持管理費、更新投資などの必要な経費を確保しつつ、経費の削減や使用料金の改定等を検討したい。

④企業債残高対事業規模比率  
 平均値に比べて高い数値になっているが、これは処理施設の増設及び処理区域の拡大により管渠布設工事を行ってきたためである。前年度から微増しているのは打切決算により、使用料収入が減少した影響である。

⑤経費回収率  
 類似団体の平均値と比較して低い数値になっている。これは汚水処理に係る費用が使用料収入で賄われていない状況である。今後、老朽化した施設の長寿命化工事により、汚水処理費の増額も見込まれる。また、整備区域の拡大はしているが、各町の人口減や節水の原因もあり下水道料金の伸びが厳しい状況であり、来年度は経営戦略を策定する予定であり料金改定の検討を行いたい。

⑥汚水処理原価  
 有収水量1mあたりの汚水処理に要した経費であり、分流式下水道に要する経費を一般会計より繰入をしている。

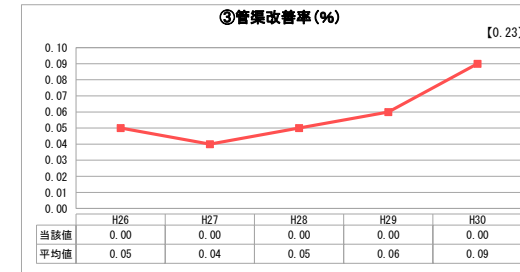
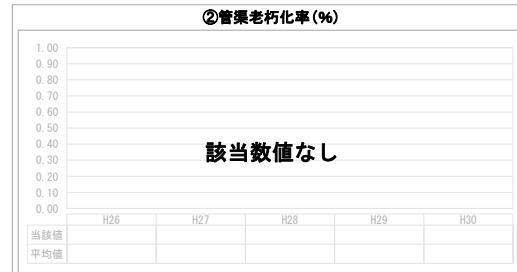
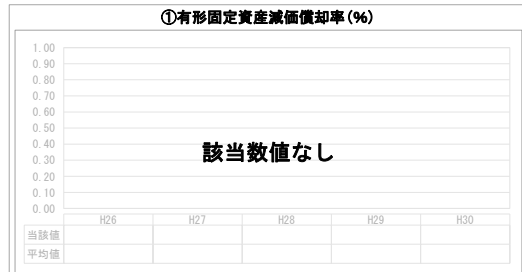
⑦施設利用率  
 汚水処理能力に対する処理水量の割合であり、類似団体と比較して低い数値になっている。原因の一つとして流入量の伸びが考えられるため、水洗化の促進に努めたい。

⑧水洗化率  
 類似団体と比較すると高い数値になっているが、まだ90%を超えたくらいである。水洗化率向上のため、未接続家屋を戸別に訪問し、水洗化促進を行う。

### 2. 老朽化の状況について

③管渠改善率  
 現在まで、埋設した下水道管渠は耐用年数を経過している管渠はまだない。しかし、今後は更新、管更生の計画策定が必要になるため、調査等の準備が必要になる。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

当組合は、平成元年に供用を開始し、下水道整備区域を拡大してきた。市街地はほとんど終了し、現在は調整区域の人口密集地への整備を行っている。下水道使用料は当初の設定時は県内上位の設定であったが、現在は平均より少し低い料金設定である。また、組合の下水道料金と各町の水道料金を別々で徴収していたが、平成31年1月検針分より上下水道料金として同時徴収になり、不能欠損額が減少すると見込まれるが、未接続家屋の家屋への戸別訪問等を行い更に水洗化促進をしたい。終末処理場は供用開始から30年が過ぎ、老朽化が進んでおり、長寿命化計画において再構築工事を段階的に実行している。また、平成31年4月から地方公営企業法適用に移行した。組合の経営状態、資産等を把握することができることから、今後は中長期的な収支計画を検討して令和2年度に策定をする経営戦略において経営健全化の取組み方針を検討したい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。